

レポーター：学芸員の堀本さんです。よろしくお願いします。

学芸員：よろしくお願いします。

レポーター：とっても大きくてきれいな槍ですね。

学芸員：はい、日本号の槍といいまして大見槍の槍というんですが、普通一尺を超えると大見槍なんですけど、これ二尺以上あって約80センチ刃の長さがあります。

レポーター：かなり大きい槍ですよ。

学芸員：大きいですね。溝が掘ってあるんですね。わかります？何の模様か。

レポーター：龍？

学芸員：龍なんです。三鉈杵といいまして、剣があって剣のまわりを左回りにぐるぐるぐると龍が巻いていっているんですよ。最後剣の切っ先をがぶっとくわえて。これは倶利伽羅龍っていってですね、不動明王をあらわしているんですね。大日如来の守護神なんです。これはもともと豊臣秀吉がもっててそれを秀吉の家臣の福島正則という子飼いの武将がいて、それに与えていた。黒田家からですね、黒田家の家臣の母里太兵衛という人物、福島のところへ使いに行ったときに、福島正則から酒を飲めと大盃で強要された。それで固辞するんですね、最初は、福島正則が全部飲み干したら好きなものをあげるぞということで、じゃあこの槍くれるかと。

レポーター：えー。

学芸員：ということで見事飲み干してもらったやりがこれ。飲み取りの槍といった呼びかたもしてるんですね。で、翌日になって、槍がないんでどうしたんだと。殿が昨日あげましたということで、返してくれといたそうなんですけど、母里太兵衛は返さなかった。関ヶ原の戦いのときに、長政と如水の奥さんが大阪にいたんですね、石田方に人質にとられるかもしれないということで、脱出させるんですよ、そのとき母里太兵衛が奥方たちを船に乗せて、舟の舳先にこの槍をもってですね立って、で、護衛をして。当時はまだ福岡に来る以前だったんですね、中津というところでした。大阪から瀬戸内海を通過して、中津まで無事に護衛をして救出した。そのあとは如水に従って、この槍をもって戦った。という槍ですね。

レポーター：本物を見られるのは感動しますね。

学芸員：博物館においで頂いたら、見逃さず見て頂きたいものですね。